

## 平成28年6月定例教育委員会 会議録

1. 日 時 平成28年6月22日(水) 開 会 午前 10時00分  
閉 会 午前 12時00分

2. 会 場 茅野市役所 704会議室

3. 出席委員	教育委員長	吉田 一	同職務代理者	小林 智
	教育委員	小林 俊恵	教育委員	小平 光子
	教育長	牛山 英彦		
出席者	生涯学習部長	木川 亮一	こども部長	牛山 洋治
	学校教育課長	平出 信次	文化財課長	守矢 昌文
	スポーツ健康課長	鋤柄 敏	公民館長	矢島喜久雄
	幼児教育課長	牛山津人志	こども課長	両角 勝元
	生涯学習課長	小島 吉彦		
	教育総務係長	渡辺 雄一	生涯学習係長	上原 平二
	教育総務主事	丸茂 直樹		

4. 傍聴者 3名

## 6 月定例教育委員会次第

日時 平成 28 年 6 月 22 日（水）午前 10 時 00 分から

場所 市役所 704 会議室

### 1 開 会

### 2 前回会議録の承認

### 3 報告事項

第 1 号 教育委員長報告

第 2 号 教育長報告

第 3 号 各課からの報告

（1）学校教育課

（2）こども課

（3）幼児教育課

（4）生涯学習課

（5）公民館

（6）文化財課

（7）スポーツ健康課

第 4 号 教育委員会共催後援

（1）生涯学習課

（2）スポーツ健康課

### 4 議案

今回はありません。

### 5 検討事項

（1）小中一貫教育について

（2）総合教育会議の開催について

### 6 その他

（1）市議会 6 月定例会一般質問について

（2）市議会 6 月定例会議決結果について

（3）平成 27 年度保育園の運営状況について

（4）茅野市・原村青少年健全育成推進大会について

（5）ファミリーサポートセンター事業について

次回定例教育委員会日程について

7 月 26 日（火）午後 1 時 30 分「702 会議室」

（事務局会議 7 月 13 日（水）午前 9 時 00 分「701 会議室」）

### 7 閉会

吉田委員長

只今から、6月定例教育委員会を開催します。

会議に入る前にお諮りをさせていただきます。本日LCVよりテレビ取材の依頼がありました。撮影はLCVニュースで使用する映像だけとなり、音声の方は使用しないということになります。撮影を許可してもよろしいでしょうか。

出席者全員

異議なし

吉田委員長

まず、前月の5月の会議録の確認をします。何かありますか。

全委員

異議なし。

吉田委員長

本件は承認されました。なお、会議録の署名は委員会終了後にお願いします。

それでは報告事項第1号、教育委員長報告についてお願いします。

5日に全国植樹祭に参加させていただきました。長野県では松くい虫が繁殖しているようでして、諏訪にいと気づきませんでした。今後諏訪の方にも被害が出るかもしれません。1つの樹種だけの山が広がっていくことの危険性なども感じました。いろいろなものが混じっている方が様々なことに耐えられるのではないかと思います。これは教育にも通じ、様々な多様性に対応して、こども一人一人を大切するという茅野市の教育は間違っていないと感じました。

16日に人権尊重の審議会に出席させていただきました。システムがしっかり整っていても、一人一人が理解し、受け止めていくことが大切だと思います。人権の問題についてもそれぞれの担当者の意識と力量を高めていく必要があると思います。

22日以降に学校訪問の日程が入っておりますが、主幹指導主事のご指導の訪問が始まっております。委員さん方にはこの後行った学校でのお話をしていただきたいと思います。私からは以上になります。

小林（智）委員

1日に2校回るスケジュールの訪問に参加しました。対象の学校は、宮川小学校と、金沢小学校でした。特別、注意すべき点はありませんでした。授業をする姿、休み時間に挨拶をしてくれる姿というのは学校に行かせていただくたびに良いなと感じます。

私からは以上になります。

#### 小林（俊）委員

私は東部中学校へ参加させていただきました。指導主事の先生が学校の先生へ挨拶した際に非常に大きな声で挨拶していて非常に感心しておりました。私は以前から東部中学校の生徒の挨拶を見ていましたが、とてもさわやかないい挨拶でした。それは学校の先生がしっかり挨拶をしていて、それが子どもにも伝わっていると感じました。授業の中では、豊かな学びあいということで、いろんな授業形態が変わってきていて、それを先生方がどう受け止めているかで各教室の雰囲気が違っているなということを感じました。

私からは以上です。

#### 小平委員

私は北山小学校へ参加させていただきました。お花が非常に多く玄関などを飾っていたり、生け花が教室に飾ってあったり、廊下にもお花がありました。校長先生にお話を聞きましたら、クラブ活動などで地域の方が学校の中へ入ることがあるので、学校のいろんな箇所に花があるとのことで、花が玄関から、廊下まで飾ってあって心が温まりました。地域の方々に協力していただいて様々な事を行っているようで、地域との連携力を感じました。小さな学年から大きな学年になるにつれて、身が引き締まるというような雰囲気を感じ、学年が違ふとこんなに雰囲気が変わるんだなということを感じました。児童が用務員の先生の所や、校長先生の所へ遊びに行くという場面がありまして、主幹指導主事の先生が、こういう学校はなかなか、ないということでとても感心しておりました。

私からは以上です。

#### 吉田委員長

次に報告第2号教育長報告を教育長からお願いします。

#### 教育長

私も指導主事の先生の学校訪問についての報告いたします。今日までに金沢小学校、宮川小学校、北山小学校、東部中学校の4校へ訪問していただいておりますが、4校の校長先生、また4校のすべての学校の先生が、主幹指導主事の訪問をいただいてご指導を受けるという姿勢が如実に、表れていました。校長先生が、一生懸命に自分の学校の歴史、課題を主幹指導主事に説明し、主幹指導主事の先生も考えられるところについては、答えていただけていました。改めて、主幹指導主事の学校訪問の重要性について感じさせていただきました。

6日に不登校等対応検討会がありました。この会議でいろいろ議論されている話を聞いて私が感じたことは、1人の子どもも1人にしない、ということをもどの委員さんもおっしゃっていてとても感動しました。

17日には永明小中学校授業参観がありました。この公開授業は6月の29日に佐藤雅彰先生をお呼びしての研修会があり、それに向けての授業参観という意味合いもありました。全クラスの授業を見させていただきましたが、非常に私自身学ぶことは多くありました。一斉指導と、こども達が自ら学ぶ授業を比較してみますと、一斉授業という形で授業を行っているクラスは受け身になりますので、少し授業がつまらないと感じている雰囲気も感じ取れました。こどもが自ら学ぼうとするように考えている先生の授業では、こども達は積極的でとても勉強に対して意欲を持っているこどもがいました。やはり、一斉授業という形からこども達が自ら学ぶような授業へ変えていくことの重要性を感じました。

私からは以上になります。

吉田委員長

次に報告3号各課から報告をお願いします。

[各課から7月行事予定について報告]

資料（報告3号）

吉田委員長

次に報告事項第4号、教育委員会共催・後援についてお願いします。

[生涯学習課、スポーツ健康課から教育委員会共催・後援について報告]

資料（報告4号）

吉田委員長

次に検討事項1「小中一貫教育について」教育長、学校教育課長から説明をお願いいたします。

教育長

[概要]

なぜ私たちが小中一貫教育を行うのかということを説明させていただきます。一言で言えば茅野市の教育の質を向上させるためです。もっと細かく言うと子どもたちの学力を最大限に高めたい、そのためには、子ども達の生きる力を高めたい、ということで始めました。そこに至るまでの過程の中で、私たちが大切にしてきたことは、小学校と中学校で指導に対する考え方が少し違っていました。同じ義務教育をするのに対して、違っているのはまずいのではないのかと思います。A小学校、B小学校を卒業しC中学校で辞書を使う授業を受けた際に、A小学校の生徒は辞書を日頃から使っており、慣れている。B小学校の生徒は4年生で使い方は教わったが、詳しくは教わらなかったというような事例があります。このような違いが、卒業する小学校によって発生してしまっています。同じ指導観になっ

て指導しなければ、こども達にいい影響を与えられないということから、小中一貫教育を始めました。

詳細については学校教育課長からお願いします。

学校教育課長

〔概要〕

小中一貫教育を実現するための学びの姿（H28.6 現在）について説明させていただきます。まず小中一貫教育の実践と取組になります。文部科学省が示す、主な小中一貫教育に必要な事項としては、9年間の教育目標の設定、9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成、市町村教育委員会の設置があります。以上の3点を踏まえまして、現在茅野市が実践していることは、中学校区ごとの小中一貫教育の全体構想づくり、教科ごとの9年間のカリキュラム作り、一コマごとの授業デザインづくり（豊かな学び合い学習の実践）、研修事業、公開授業を通しての豊かな学び合いの理解（学びのデザインと授業リフレクション）です。豊かな学び合い学習がいったいどのようなものを指しているのかというと、子どもたちが学びの主体者となりお互いの良さを知り、学ぶ意欲を喚起する学習環境づくり、子ども達が、主体的な学び合いを成立させるための効果的な研修、授業づくり（一人一公開授業など）というようなことが豊かな学び合い学習になります。「授業改善による学びの共同体の形成」とは、学びの共同体では、「共有の学び」（教科書レベル）と「ジャンプの学び」（教科書以上のレベル）の2つの課題で共同的学びを組織することがベースとなっております。真正な学びの創造、聴き合う関係、ジャンプの課題の3つの要件を充足したときに始めて学びが成立すると言われています。その学びを行うためには、グループ（学習の実践に取り組んでいます。共通の課題としましては、学力向上に向けての授業改善、一人もひとりにしない教室作り（児童・生徒の居場所確保、自己有用感の育成）、アクティブラーニング（子どもが自ら主体的に学ぶ）、読書教育・縄文科学習、幼保小連携接続期カリキュラム（アプローチ&スタート カリキュラム）の実践、以上のところが学校現場で大切に行われています。

小中一貫教育が目指しているところは「自ら学び、ともに高め合い、豊かな学びと生きる力を育む小中一貫教育」であり、子ども達に「確かな学力と、21世紀を背負い・生き抜いていく力」を育むことである。

今後のスケジュールとしては、まだ詳しくお伝えすることができませんが、最終的には、来年度からスタートしていきたいと考えております。しかし、そこにいくまでに保護者の方への理解も進めていかなければいけないので、ある程度まとまったところで、保護者への理解も進めていきたいと思っております。

こども部長

ここで方向性について確認させていただき、来月の総合教育会議では、市長と話を進める中で、茅野市の小中一貫教育について、いつ開始にするのかを決定できればよいかと考えます。事務局としては規則等を改正し、来年4月1日から施行できれば、と思います。また準備段階としては、パンフレット等を作成し、保護者の方へ半年前から周知し、理解していただく必要があるかと思っています。

吉田委員長

なにか質問等ございませんか。

私達教育委員も、小中一貫教育の研修、サミットにも参加させていただきました。ただ単に行政の都合で小中学校の仕組みを変えるわけではないのではないということです。来年度からスタートさせるということで、課題を洗い出すと共に解決していく作業が残っているかと思っています。体制的な意味合いの整備は、事務局の方で行い、今各学校でやっているのが先ほど学校教育課の説明でもあった、各中学校区の推進計画であるということです。何か問題があるとすれば、推進計画を4中学校区ごとにすり合わせていき、最終的にはどのような茅野市のスタンダードにするかが問題になってくるかと思っています。

こども部長

規則で明確に組み込むことが難しいかと思っています。義務教育学校とは少し違います、茅野市の小中一貫教育をやるということを、学校を含めてそこに記載されるので、茅野市の教育について、規則に記載されるというのが難しいと思います。

教育長

1番難しいことは、こういうことを各学校で行っていくということを保護者の方々に分かっていただくには、今後どのように強調していくかが難しいと思っています。先ほど課長さんがおっしゃったように半年くらい時間をかけなければいけないかと思っています。教育委員方に理解していただきたいことは、今日の説明を聞いて具体的に教育委員としてどこを強調したらいいかを考えていただけたらと思います。

小林（智）委員

保護者や市民に説明していくという部分で、小中一貫教育という言葉を目にした時点で保護者の方は、義務教育学校の方になってしまう人が多いかと思っています。実際茅野市が進める小中一貫教育はそうではない、という事を1番最初に説明しなければいけないと思います。豊かな学び合いなどの教育理念に沿って授業を行い、それに伴って小中一貫教育になってくということが1番強調する事かと思っています。豊かな学び合いも、私達のような斉教育を受けてきた世代からすると、授業を参観したときには、違和感があるように思う

かもしれませんが、1度小中一貫教育、豊かな学び合いについて説明していけば、そのようなこともなくなると思います。

小林（俊）委員

保護者の方はいろんな考えを持っていますので、今まで、何か行方際にもやはり人によっては反対というような意見もたくさんあり、なかなか計画通りに進まないこともあったかと思ひます。なので1番最初であるスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの保育園の園児の親御さんから浸透させていくのが大事かと思ひます。ここでしっかり説明をしておくで保育園に通っているお子さんが、児童、生徒へ成長したときに問題が起きるというようなことが減っていくかと思ひます。保育園から小学校1年生へ繋げていく際にとてもスムーズになるかと思ひます。

こども部長

茅野市は他の市と違い、保育園からアプローチカリキュラムなど、幼保小連携教育があつて、小中一貫教育がありますので小林委員さんがおっしゃったように、保育園から繋がりがあるという事をきちんと説明した方が良ひかと思ひます。

小平委員

小中一貫教育と聞くと、諏訪市などの事が新聞になつてますので、どうしても小学校の統廃合などを思ひ浮かべてしまひます。茅野市の校舎などは、今と変わらず進めていくけれど、中身に焦点をあてた小中一貫教育ということを親に知らせるでそこから、内容について説明しなければいけないかと思ひます。親御さんからしたら統廃合というところが1番気になると思ひます。

教育長

この小中一貫教育というものに対しての考え方というのは、通学区問題と密接した関連があるかと思ひます。茅野市の通学区問題は昔で言う一つの村、地区でありながらA中学校、B中学校に通う人がいます。それによって保護者の人達は、A中学校よりもB中学校の方が良ひ教育をしていそうだからB中学校へ通わせたいというような意識があると思ひます。それぞれの学校が特色を出せということを言っておりますが、特色を出せば出すほど学校ごとの差が出ているような雰囲気を感じる保護者が出ています。教育の公平性などを考えた時にあまり良くない、そこで茅野市の教育としては、13校どこの学校へ行っても同じ質の、同じ教育を、同じ考え方でやっているという雰囲気にした方が保護者の方も納得するのではないのかと思ひます。

小中一貫教育の区分期というものがありますが、一般的に小中一貫教育を考えている自治体は、小学校、1年生から4年生の4年間、5年生から中学校1年生の3年間、そして中



学校2年生から3年生の2年間というような、4，3，2年というような区分期が良いといわれております。茅野市の保育士の研究の結果、学びを重視した生活をしていくには、保育園と小学校が連携していくことが重要という事がはっきりしてきましたので茅野市では小中一貫教育のところに保育園も入っています。よって茅野市の区分期は保育園も入っていることから、また研究をしてしっかり考えていかなければいけないかと考えます。区分を設けることによって先生方にとっては指導しやすくなることは確かだと思います。

吉田委員長

今までやってきたこと、体験をまとめたら、具体的な体系としてまとめたらどうなるかということ、ここにある4中学校区の全体構造として表に出てきているわけですね。今までやってきているという事を、保護者の方々にお伝えすることにより、理解していただけるのではないかと思います。通学区問題を考えるから小中一貫を入れるわけではなく、小中一貫教育の授業が始まっていると私は思います。小中一貫教育の授業を効率よく行うために、通学区問題というものが出てくるようになるかと思います。茅野市においては茅野市の教育のスタンダードをきちんと示すことにより、地区は同じで、通う学校は違うけれども、受ける教育は同じなんだ、ということを確認しておきたいと思います。それを本当に保証するには、技術的な問題などがあると思いますが、それはやっていくなかで出てくるかと思います。今の段階では、そういうところを含めて総合教育会議で議論していきたいと思います。

次に検討事項2「総合教育会議の開催について」学校教育課長からお願いいたします。

学校教育課長

総合教育会議の日程が決まりましたので報告させていただきます。7月20日水曜日午後4時から行いたいと思います。議題は、小中一貫としたいと思いますが、何か委員さんからご意見はありますか。

吉田委員長

特にございません。

次にその他1「市議会6月定例会一般質問について」両部長から説明をお願いいたします。

こども部長

こども部は5人の議員から質問をいただいております。

矢島正恒議員から通学路の交通安全対策について3つ質問をいただいております。1つ目は「通学路の危険個所の把握状況と関係者への周知について」ということで、回答は、平成24年8月の緊急合同点検調査実施後、平成27年3月に道路管理者、警察、保護者、

学校等による通学路交通安全推進協議会を設置し、通学路交通安全プログラムを策定した。このプログラムに基づき、危険箇所改善の進行管理に取り組んでいる。危険箇所の把握等については、学校職員、PTAにより通学路の点検、周知を行っている。緊急合同点検での34か所の改善要望はこの4年間で30か所の改善を実施した。2つ目の質問は「通学路の安全対策の強化について」ということで、回答は、通学路のハード面の整備要望は建設課が総合的な窓口で対応している。市道の改善については、建設課で早めの対応を行っている。3つ目の質問は「自ら身を守るための交通安全教育の推進について」ということで、回答は、市内小中学校では、秋と春に交通安全教室を開催して、正しい歩き方、自転車の安全な乗り方について学んでいる。また、中学校では定期的に教職員やPTAによる街頭指導を実施している。

伊藤玲子議員からはファミリーサポートセンター事業について4つの質問をいただいております。1つ目の質問は、「当市におけるファミリーサポート事業の趣旨について」ということで、回答は、市では、ファミリーサポートセンター事業を子ども・子育て支援事業計画に位置付け、また地域総合戦略の中にも、具体的事業として挙げている。2つ目は「責任主体は、市・社会福祉協議会どちらか」ということで、回答はこの実施主体は市町村であるため、事業の実施責任は茅野市にある。3つ目は、「事故が発生した場合の責任について」ということで、回答は、この事業は会員同士の相互の有償活動であるため、基本的には援助会員の責任になる。会員が安心して活動できるように、補償保険に加入している。事故等が発生した場合には、手続きをはじめ、社会福祉協議会も支援をしていく。4つ目は「ひとり親家庭等への利用料の助成について」県内では実施17市のうち2市が助成を行っているが、茅野市では今後の事業の実施状況を見る中で、必要に応じて考えていきたい。

長田近夫議員からは「食品ロス削減に向けた取組みについて」質問をいただいております。質問の内容としては、「教育施設における食品ロス削減の啓発について」ということで、回答は、市では食育の教育を推進し、栄養士が話をしたり、個別に指導もしている。また27年度の給食残食量総数は7,051.84kg、一食当たり小学校6.1g、中学校4.8gで体格に合わせた配慮を行い、残食を出さない取組みをしている。

望月克治議員からは選挙の意味を理解してもらい、投票率を上げる手法について質問をいただいております。内容としては、「生活と政治の関連を教育現場で取り入れることについて」ということで、回答は、小学校では6学年の社会科で、国民権、民主政治等の学習を、中学校で社会科の公民の中で、選挙の仕組み等で学んでいる。昨年長峰中学校で行われた授業改善教育研究会の社会科の授業では、安全保障関連法を題材として授業を行っているが、こうしたことが主権者意識を養う政治教育に繋がっていく。また、縄文科は、自立心を育て、生活や社会と向き合う力を育むことに繋がっている。その他、茅野市ぼくらの未来プロジェクトの活動により、地域行政や政治について関心を持つきっかけとなり主権者意識を育てる取組みになっている。

伊藤勝議員からは保育士の対応について2つ質問をいただいております。1つ目は「待遇の現状について」ということで、回答は、茅野市の職員に対して支給する給料については、職種による違いはなく、条例に基づく同一の給料表に基づいて支給されているため、保育士を含むすべての職員が給料面で同じ処遇となっている。園長の職務については、一部の決裁権限を付与されていますが、管理者ではなく、監督職として位置付けている。2つ目は「正規、非正規職員の割合の本庁職員との比較について」ということで、回答は、常勤の保育士207名のうち正規保育士は55.6%の115名、非正規保育士は44.4%の92名となっている。保育士採用計画では、すべてのクラス担任は正規保育士が担うという配置基準を設け、保育士採用を計画に行っている。非正規保育士は、未満児クラスの副担任、障がい児等の支援を行っているが、今後も計画的に採用を実施していく。

こども部は以上になります。

#### 生涯学習部長

伊藤正陽議員から憲法を生かす市政運営について質問をいただいています。生涯学習で該当する質問は、「社会教育施設の使用制限について」ということで、回答は、社会教育法では、社会教育施設として図書館、博物館、公民館、公文書館が挙げられる。茅野市民館、は社会教育法に規定する「設置目的」及び「運営方針」を妨げない限度で使用を許可している。公民館が行ってはならない行為として、営利を目的とした事業を行い、特定の営利業務に公民館の名称を利用させ、その他営利事業を援助すること、特定の政党の利害に関する事業を行い、又は選挙に関し特定の候補者を支持すること、特定の宗教を支持し又は特定の宗派、もしくは教団を支援することはしてはいけないとされている。また、公益を害し風俗を乱すおそれがあるとき、建物又は設備をき損するおそれがあるとき、管理上支障があると認められるときは公民館使用を認めない。ただ、社会教育法では、「使用目的」は定められているが、利用団体の性格まで述べられていない。同一団体であっても、使用目的により使用できる場合とできない場合がある。「営利的行為の禁止」や「政治的中立性の確保」、「宗教的な行為の制限」に抵触するかについては、使用する団体で判断するのではなく、施設の利用目的で判断している。例えば、民間教育事業者が行う組織的な教育活動も、使用目的に合致し営利事業の援助に該当しなければ公共の利用とみなすことができる場合がある。主催者が政党や後援団体の場合でも、すぐに法に抵触するのではない。政党だから使用できないということではなく、年金制度学習会といった社会教育が目的であれば使用を許可し、決起集会的な内容であれば使用をお断りすることになる。また憲法89条では、宗教的な行為を制限しているが、全ての宗教団体に対して部屋の貸し出しなどを制限しているわけではない。宗教団体であっても、一般的な教育的活動であれば、使用を認めることができる。施設の使用は、施設利用の内容や目的で判断し、判断が困難な場合は、公民館運営審議会に諮る。今まで、公民館では企業の研修会やカルチャーセンター的な生業としての教室の開催は、使用を断ったことがある。

吉田委員長

何か質問等ございませんか。

次にその他 2 「平成 2 8 年茅野市議会 6 月定例会議決結果」についてこども部長からお願いします。

こども部長

議案 3 4 号「茅野市子どものための教育・保育給付に関する利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて」こちらは承認となりました。

議案 4 0 号「茅野市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」こちらも可決となりました。

吉田委員長

何か質問等ございませんか。

次にその他 3 「平成 2 7 年度保育所の運営状況について」幼児教育課長からお願いします。

幼児教育課長

[概要]

#### 1 運営状況

平成 2 7 年度決算は、平成 2 2 年に策定した保育園建設計画の前期計画に基づく建設がほぼ終了となったため、昨年度に比べて減少しました。

#### 2 保育所入所児童数について

保育園の入園児童数は、少子化の傾向を受け、平成 1 8 年度をピークとして減少に転じています。3 歳未満児については増加傾向にありましたが、ここ数年は横ばいの状況となっております。

#### 3 子ども・子育て支援新制度について

子ども・子育てをめぐる様々な課題を解決して、子育てしやすい社会を実現するため、平成 2 4 年 8 月に「こども・子育て支援法」が成立しました。この法律とその他関係する法律に基づき、「子ども・子育て支援新制度」が平成 2 7 年 4 月からスタートしました。新制度では、支援の量の拡充と支援の質の向上を目指し、消費税増税分を活用して子育てを社会全体で支えていく仕組みとなっております。茅野市は、待機児童等の問題が直接保護者に大きな影響を及ぼすことはありませんが、新制度のもと、保育や幼児教育を必要とするすべての家庭が利用できる仕組みを整えました。

#### 4 保育料について

国では世帯の所得の状況その他の事情を勘案して定めることとされており、国が定める上限の範囲内で市町村が決定することとなっております。保育料の算定には、市町村民税の額を用い階層分類し算定しています。茅野市では、平成26年度位までの保育料の水準を基本とし、2号・3号認定は国の基準の8階層、1号認定は国基準の5階層で保育料を定めています。また、1号認定・2号認定の料金に格差が生じない、保育標準時間と保育短時間の料金差を設け利用時間に応じた負担とするなど、利用者の視点に添った設定となっております。

#### 5 特別保育事業について

保育士のノウハウを活かした子育て相談（随時）や未就園児のつどいの開催、お散歩マップ配布など地域における子育て拠点施設として活動しております。また、地域のお年寄りとの交流、デイサービスセンターを訪問して、お年寄りとのふれあいを楽しんだり、園児と一緒に遊ぶ開園開放など地域の方との交流を進めています。

#### 6 特色ある保育園運営について

保護者の保育所選択制度及び広域入所、保育サポーター、私立保育園との連携、1日保育士体験、幼保小連携などを行っております。

吉田委員長

何か質問等ございませんか。

次にその他4「茅野市・原村青少年健全育成推進大会について」こども課長から願います。

こども課長

心豊かな青少年を育もうということで、毎年茅野市・原村青少年健全育成推進大会が行われています。主催は、茅野市・原村、茅野市・原村教育委員会、中諏校長会、中諏生徒指導連絡協議会となっております。

開催日時は7月13日水曜日午後6時30分から午後8時15分までとなっております。会場は茅野市民間マルチホールです。内容としては「社会を明るくする運動」作文コンテスト優秀作品の作品発表、基調講演となります。講師は国立信州高遠青少年自然の家、次長、黒田敏樹先生をお呼びします。演題は「体験の風をおこそう～子どもたちの健やかな成長を願って～」ということになります。教育委員の皆さまにつきましては、可能であれば参加をお願いします。

吉田委員長

教育委員については、出席についてご考慮ください。

次にその他5「ファミリーサポートセンター事業について」こども課長からお願いします。

こども課長

〔概要〕

ファミリーサポートセンター事業の内容については、前回説明をしておりますので、今回は経過について説明させていただきます。事業については、茅野市から茅野社会福祉協議会へ委託となります。援助会員の養成ということで、4月18日から5月30日までの間に5日講習会を開き合計24時間の講習を行いました。受講生が32名で、修了者についても32名になります。男性につきましてはその中で1名だけとなっております。援助会員の登録者人数につきましては、現在18名となっております。「広報ちの」及び社会福祉協議会情報誌「やらざあ」への募集記事へ記載し募集を行っております。今後のスケジュールとしましては、7月から援助活動を開始します。引き続き依頼会員の募集についても実施していきます。

資料説明（その他5）

吉田委員長

質問等ございませんか。

次回定例教育委員会ですが、7月26日火曜日午後1時30分から、事前を午後1時00分から開催したいと思います。よろしいですか。

全委員

異議なし。

吉田委員長

ご異議ないようですので、そのようにいたします。

以上で6月定例教育委員会を終了します。

茅野市教育委員会会議規則第19条第2項の規定によりここに署名する。

平成28年7月26日

茅野市教育委員会 委 員 長

同職務者代理

委 員

委 員

教 育 長

こども部長